

PRESS RELEASE

2025 年 5 月 9 日
株式会社 ispace

2025 年 3 月期 通期決算を発表

「民間月面ビジネスの幕開け！」世界で加速する月面開発と本格化する政府支援体制
2026 年 3 月期は「プロジェクト収益」ベースで約倍増の成長を見込む

株式会社 ispace（東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下 ispace）（証券コード 9348）は 5 月 9 日（金）に 2025 年 3 月期通期決算発表を行いました。

詳細は当社 IR サイトより、本日発表の 2025 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕（連結）資料をご参照下さい。また同サイトにて、通期 決算説明資料・決算説明会 録画・決算説明会書き起こしも順次開示いたします。

当社 IR サイト：<https://ir.ispace-inc.com/jpn/news/>

1. 経営成績

- 売上高：4,743 百万円
2025 年 2 月に発表した通期業績予想をやや上回る水準で着地。ミッション 3 に関して、想定以上に費用算入（翌期分の先取り）が進んだため、原価回収基準に基づく売上高が増加しました。
- 売上総利益：2,244 百万円
欧州子会社におけるローバー開発受託に関する原価計上の増加等により、業績予想対比で微減しました。
- 営業損益：△9,795 百万円
販管費が計画通りに着地したことにより、概ね業績予想と同水準となりました。
- 当期純損益：△11,945 百万円
主に第 4 四半期に発生した円高の影響による為替差損により、業績予想対比で減益となりました。

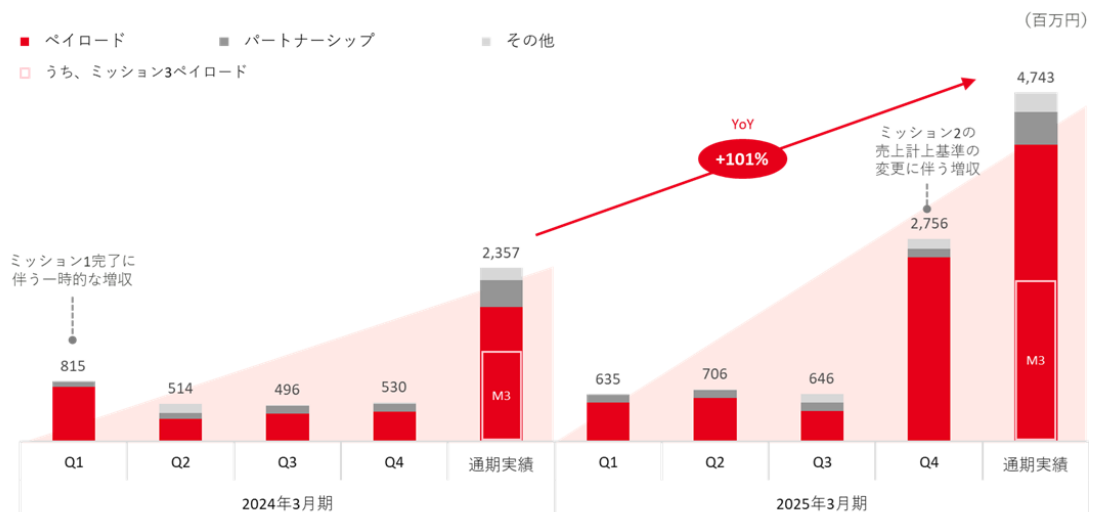
2025 年 3 月期の貸借対照表、キャッシュフロー計算書につきましては通期決算資料等をご参照下さい。

(単位：百万円)	2025年3月期	2025年3月期		2024年3月期（前期）	
	通期実績	通期予想	増減率	通期実績	増減率
売上高	4,743	4,467	6.2%	2,357	101.2%
売上総利益	2,244	2,325	△3.5%	928	141.8%
売上総利益率	47.3%	52.0%	-	39.4%	-
販売管理費	12,039	12,197	△1.3%	6,429	87.2%
営業損益	△9,795	△9,872	-	△5,501	-
経常損益	△11,334	△10,774	-	△6,097	-
当期純損益	△11,945	△10,763	-	△2,366	-

2025 年 3 月期通期決算説明資料より

2. サービス別売上高推移

今期の最終的な売上高は約 47 億円と前年度対比で大幅増収となりました。会計基準の変更に伴うミッション2の売上の前倒し計上、およびミッション3のペイロード売上が前年度を上回る水準で推移したことによる、収入の増加が主因となります。



サービス別売上高推移

3. 2026年3月期 業績予想

- 売上高：6,200 百万円

今期の業績予想では、売上高 62 億円を見込んでいます。引き続き今期の売上は主にミッション 3 が牽引する見込みであり、宇宙戦略基金第一期に採択された案件を含むミッション 4 からの売上も一部開始される予定です。また限定的ながらミッション 2 および 5 からの売上も見込んでおります。

- 売上総利益：500 百万円

昨年度発生した一時的なミッション 2 の売上総利益がなく、今期は基本的に原価回収基準での売上計上を見込むため、売上総利益はごく一部に限定される予定です。

- 営業損益：△11,500 百万円

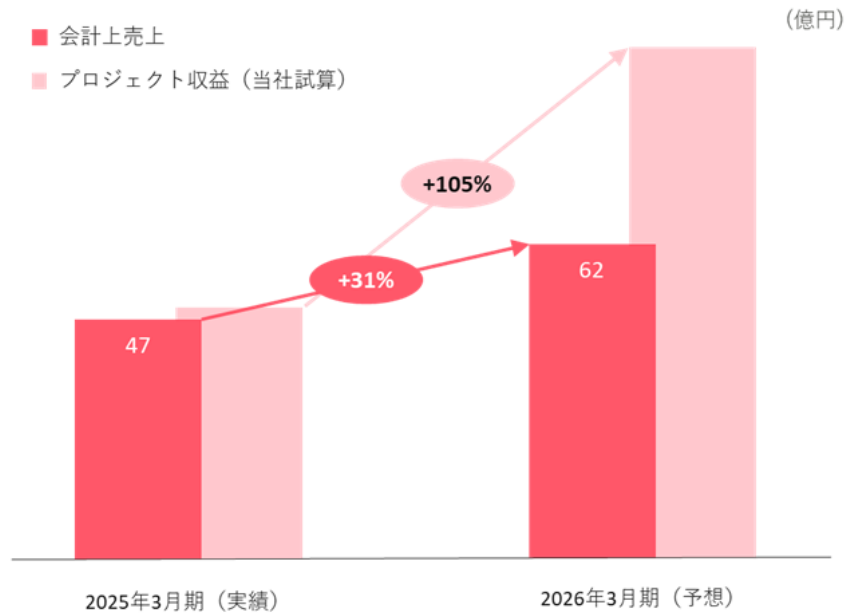
今期は前年度のミッション 2 の打上げ費等の一時費用が発生しない見込みですが、ミッション 4 の費用の本格的な支出開始を見込んでおります。

- 当期純損益：△8,300 百万円

ミッション 4 に関して、SBIR 補助収入を営業外収入として計上を見込んでおり、2025 年 3 月期対比で大幅に拡大する予定です。当期純損益では改善を見込んでおります。

(単位：百万円)	2026年3月期	2025年3月期（前期）		
	業績予想	実績	増減率	増減
売上高	6,200	4,743	+30.7%	+1,457
売上総利益	500	2,244	△77.7%	△1,744
売上総利益率	8.1%	47.3%	-	-
販売管理費	12,000	12,039	△0.3%	△39
営業損益	△11,500	△9,795	-	△1,705
経常損益	△8,300	△11,334	-	+3,656
当期純損益	△8,300	△11,945	-	+3,645

2026/3 期 通期業績予想



会計上の売上とプロジェクト収益

今回、新たな試みとして、会計上の売上高に SBIR 補助金からの収入を合計した当社試算値を「プロジェクト収益」として開示しております。昨年度までは損益計算書全体に対するミッション4に関する SBIR 補助金収入の割合は限定的であったものの、2026 年 3 月期からはより本格的な貢献が見込まれており、当社の事業成長の実態をご理解いただく上で「プロジェクト収益」は一定の有益な手段と考えております。

当連結会計年度の売上高実績と 2026 年 3 月期の売上高予想を比較した場合、約 31%の増加が見込まれる一方、「プロジェクト収益」で比較した場合には、約倍増となることを見込んでおり、引き続き強い成長を実現する計画となっております。

■ 株式会社 ispace 取締役 CFO 事業統括エグゼクティブ 野崎 順平コメント

「2025 年 3 月期は、「民間月面ビジネスの幕開け」を感じる 1 年となりました。当社を含む民間による月ミッションが世界中で相次ぎ、また宇宙戦略基金を筆頭に政府による支援体制も本格化しています。2 月の日米首脳会談では「月面探査におけるパートナーシップの継続」が共同声明に明記され、さらに 5 月 2 日付で NASA が月探査に 70 億ドル以上、火星探査に新たに 10 億ドルを投じることで、革新性と効率性の維持を保証する声明を発表しました。これにより、引き続き当社にとって良好なビジネス環境が期待できると考えております。

今期はミッション2およびミッション3におけるペイロード収入の増加により大幅な増収を達成し、今後もミッション4（旧ミッション6）の収入本格化により収益成長が見込まれます。引き続き社員一同、来る日本時間6月6日の月面着陸成功に向けた準備に全力を注ぐと共に、ミッションを通じて得られる知見を、後続するミッション開発に活かしながら、シスルナ経済圏構築の実現に貢献してまいります。」

■ 株式会社 ispace (<https://ispace-inc.com/jpn/>)について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセ

ンブルク、アメリカの 3 拠点で活動し、現在約 300 名のスタッフが在籍。2010 年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った 5 チームのうちの 1 チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022 年 12 月 11 日には SpaceX の Falcon 9 を使用し、同社初となるミッション 1 のランダーの打ち上げを完了。続くミッション 2 は 2025 年 1 月 15 日に打上げを完了し、最短 2025 年 6 月 6 日に、月面着陸へ再挑戦の予定。ミッション 3 およびミッション 4（旧ミッション 6）は 2027 年に打ち上げを行う予定。

ミッション 1 の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション 1 マイルストーンの 10 段階の内 Success8 まで成功を収めることができ、Success9 中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション 1 で得られたデータやノウハウは、後続するミッション 2 へフィードバックされている。更にミッション 3 では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によって NASA が行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。

¹ 2025 年 5 月時点の想定